



تېنچلىق  
P E A C E  
C · UYGHUR

## 「世界ウイグル会議ドルクン・エイサ氏インタビュー」再録

Dolkun Isa : Secretary-general of World Uyghur Congress

2010年10月3日配信 通訳：トゥール・ムハメット (Tur Muhammet 中央アジア研究所)



アメリカでもこの運動は短い期間で国会や政府の中で大きく取り上げられるようになっております。この状況はウイグル人に大きな希望を与えております。私たちは希望を持ってウイグルの人権のために戦っているのです。

質問：日本への希望をお聞かせください。

日本は世界で、そしてアジアで民主国家であります。それから日本は経済的に大国であります。それと同時に日本は国際社会、我々人類に責任を持つべき大国であります。私は日本はやはり強く自信を持つべきだと思います。

日本は経済的に政治的にそれが民主国家であるということは我々人類にとって価値のあることです。経済的能力を日本はうまく活用し日本の国際社会における人権問題、それから拡張主義や大国の侵略という様々な国際問題に対して日本は国際社会で発言力を強めるべきだと私は考えております。

一方で中国政府はこの改革解放の数十年以来、ウイグル人に対して様々な分野において弾圧を強めて来ております。

とくに我々ウイグル人と日本人はシルクロード、シルクロード文化というものによってお互い繋がっております。残念ながらシルクロード文化の中心地でありますウイグル地域が近年、中国政府によって文化面においては著しい破壊を受けております。

例えば中国政府は、この最近の三年間ウイグル文化の中心都市であります「カシュガル」の古い市街地を完全に壊してそこに中国文化象徴する中国人の街を作っております。これはウイグル人の文化に対する侵略です。我々日本人とウイグル人は文化的に繋がっているにも関わらず、我々の文化の壊滅を受けているときに目を瞑るということには我々はどうしても理解が出来ません。

日本にはシルクロード文化を守る責任があります。中国は1979年以降の改革解放によりまして、世界そして日本の経済的支援により大きく発展して参りました。当時の西側、そして日本は「中国を支援したときには経済の発展が必ず中国の民主化をもたらす」と、そういう一方的な思い込みで中国を支援してきたわけですが、結局中国は強くなった経済能力を、中国の福祉、中国の民主化に使うのではなくて「中国の軍事力」「中国の国際社会における立場」それを強くするためにその経済力を使うことになってしまいました。

その結果として例えば最近、中国は既に日本との間で解決済みの尖閣諸島を問題にして強く日本に圧力をかけております。

我々から見ると、この中国の行動はまさしく日本に対する侵略です。しかし残念ながら自国の領土を守る強い立場が見られておりません。日本は領土を守るという問題で中国に対して弱い立場をとっております。

私たちが希望するのはやはり日本人は自信を持つべきです。日本は国際社会で弱い国ではなく経済大国であり、民主国家であり、国際社会に責任がある国家でありますから自信を持つべきです。

それと同時に私たちウイグル民族のような弱い立場にある民族に対して、日本は守る責任があると私は見ております。

だから私は心から日本の国民、それから日本の国会議員の皆さまに訴えたいのは、まず日本は自信を持つこと。そして我々のような中国政府に弾圧されているウイグル人、チベット人に対して日本は責任を果たすべきです。私たちを守るべきと私たちは認識しております。日本の国民、国会議員、政府に対する心からの希望です。ありがとうございます。

★ドルクン・エイサ 世界ウイグル会議事務総長

新疆大学の学生時代に、ウイグルの子供の教育状況を改善する運動を開始。1988年には学生運動を指揮し、ウルムチで民族差別反対と民族教育の保護を訴えるための大規模なデモを行った。大学を除籍処分された後、北京でウイグルの歴史書を出版するなどの地下活動を行った。中国に留まることに危険を感じトルコに移住後、ドイツに亡命した。若い世代のウイグル人らと世界ウイグル青年会議を設立し、チベットや中国民主化活動家らとも連帯して、東トルキスタン独立の為に活発に活動した。彼の活動に脅威を感じた中国政府は彼をテロリスト指定したが、国際社会にその認識はない。現在は、世界ウイグル会議事務総長を務める。

★Youtube - <http://www.youtube.com/watch?v=gpU8vEHXk0Y>

★ニコニコ動画 - <http://www.nicovideo.jp/watch/sm12301925>

質問：今回の来日について。

皆さまこんにちわ。

私が今回来日した主な目的は「第76回国際ペン東京大会2010」に参加することです。このペンクラブの諸活動に参加すると同時に、日本の国会議員、それから日本のメディアの皆さまとお会いする機会にも恵まれ、中国におけるウイグルの人権状況や日中関係について皆さまと広範囲な意見交換ができました。

私は基本的に今回の日本での会見に対して非常に満足しております。その理由は以下の3つから申し上げたいと思います。

一つは世界の各国からいらっしゃった作家の皆さまと面会したこと。そして国際ペンクラブの会議におきましてウイグルの人権状況を紹介する機会に恵まれることが出来ました。

二つ目は、日本の与党と野党の政治家、国会議員とお会いしてウイグル人の状況を紹介することも出来ましたし、それから日中関係についても意見交換が出来ました。

三つ目は、日本ウイグル協会、協会に参加して活動されている皆さま。それから日ウイグル人コミュニティの皆さま。この方たちともお会いできて、それからご意見をいろいろと聞くことも出来まして活発な意見交換が出来ました。

そして在日ウイグル人が団結して、日本におけるウイグルの運動を展開することでも意見の一致が来ました。これにおいて私は、今回の来日は非常に意義のある、成果のある活動であったということに満足しております。

質問：世界と日本におけるウイグル運動の現状について。

世界と日本のウイグル運動の状況を紹介します。

まず、ウイグル人と日本人の関わりというのは1930年代東トルキスタン独立運動に関わった「マフムド・ムフィティ」という我々の指導者が日本に来日されて当時の日本の政府、軍部、それから日本の有志たちと広範に付き合いが出来、その当時日本ではある程度ウイグルの運動ができた時代もありました。

この東トルキスタンの我々の運動というのは長い歴史のある運動であります。その歴史は長いけれど、しかしこの運動が世界に広まる、それから日本でも展開されるということになると歴史的には短いです。

近年、世界ウイグル会議の指導者たちラビア・カーディル総裁が数回に渡って日本に来日されました。日本の国会議員、各大学、各人権団体、ウイグル支援者の皆さまと会うことが出来まして、ウイグルの状況が日本でも知られるようになりました。

非常に短い期間ですけれども、今日本ではウイグルの人権状況が良く知られるようになっております。多くの日本の皆さまがこのウイグルの悲惨な状況を知るようになって、ウイグル人に同情する方々が大変増えてきていることを私は今回の来日でも感じております。

それから日本のマスメディアのほうでも記者、それから編集者などの知識層もウイグルの問題に同情していただけるようになり、ウイグルの問題を日本で広めてくださっています。この状況は我々ウイグル人に大きな希望を与える状況になりつつあります。

それで私は、ウイグルの活動に賛同して下さった日本人の皆さまに心から感謝の礼を申し上げたいと思います。

世界においてもウイグルの運動状況というのは歴史が非常に短く、ヨーロッパでも2004年「世界ウイグル会議」が設立して以降、ウイグルの運動が広く知られるようになっております。